



大きな植物食恐竜・竜脚類の大腿骨化石に付いている岩石を小さな「削岩機」で取り除いています。化石技師が活躍する現場です

11月のモンゴルへ行ってきました。最高気温が氷点下15度、最低気温が氷点下20度という世界でした。おぉ寒っ。  
でもゴビ砂漠で化石探しではありません。博物館に保管されている標本と今年採集した標本を比べながらスケッチや写真撮影をしたり、長さを測ったりという作業をしてきました。標本をゆっくり観察していると細かな部分でいくつも新たな発見が

あつとでもわくわくします。「あそこなんだ」と納得したり「何でこうなってるの」と新たな疑問がわいたり。外は寒いですが研究室の中はホットです。  
ガガガガ。奥の部屋からは、化石の入った岩石の表面を削る音が聞こえてきます。恐竜化石を右から取り出す作業をしているのです。この仕事はプレパレーターという専門技師の方

# 研究、展示準備する専門家

岡山県生涯学習センター「人と科学の未来館サイピア」(岡山市北区伊島町)で26日まで「恐竜とくらめっこ顔き比べてみてみよう」が開催中。トリケラトプスやアロサウルス、ライオン、ヒトなどの頭の骨を展示。午前9時~午後5時(18、25日休館)。岡山理科大・モンゴル科学アカデミー共同調査隊による「恐竜発掘写真展」も開かれています。問い合わせはサイピア(086-251-0752)。



大型肉食恐竜(タルボサウルス)の足跡の側面を観察する岡山理科大の卒論生。恐竜の足の動きがよみがえる瞬間です

が、特別な道具を使って行っています。ちなみにプレパレーターとは「準備をする人」という意味の英語。研究や展示の「準備をする」専門家がいるからこそ、私たちが恐竜のことを知ることができるとですね。研究というと野外で発掘という派手なシーンが目につかびますが、秋から春までは、実験室や研究室の中で、さまざまな「準備」作業や、標本を手に取りながらの研究、展示の準備が進みます。そして夏には各地の恐竜展や博物館の特別展示で成果が皆さんに届けられるのです。

## 恐竜調査隊が行く

岡山理科大教授・石垣忍



岩石から化石取り出すプレパレーター

### まめ ちしき

プレパレーターは日本ではまだ少ない職業です。一方、外国では化石の専門職として博物館や大学、標本業の会社などで活躍しています。写真はモンゴルの研究所で働くベテランプレパレーターのオトゴンジャルガルさんです。

